

第2章 新市の概況

(1) 新市の概要

1) 新市の位置と地勢等

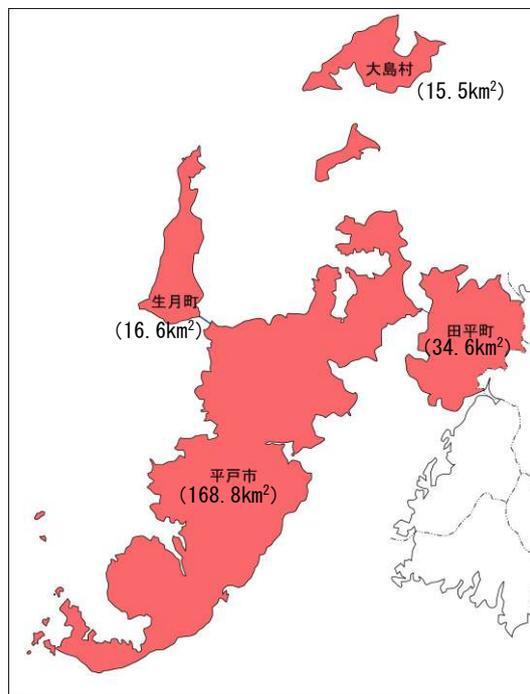
①位置、地勢

新市は、平戸市（平戸島、度島、高島）、生月町（生月島）、大島村（大島）の有人島及び九州本土北部の沿岸部に位置する田平町と周辺の多数の島々で構成されています。

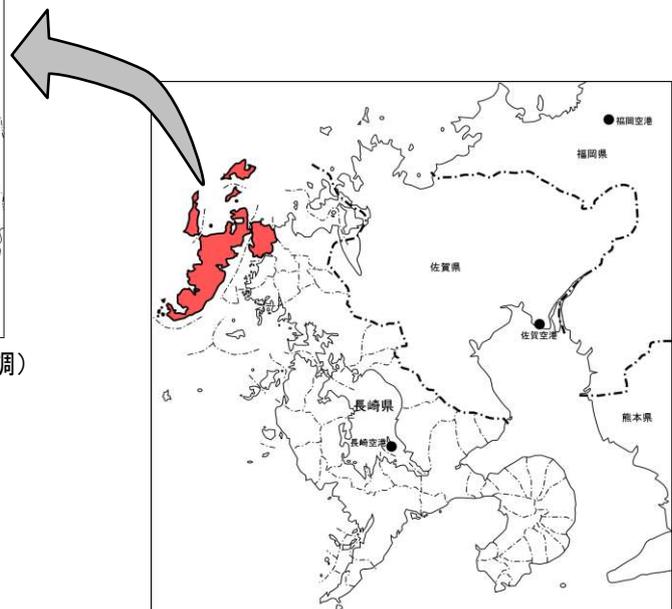
平戸島は九州本土の西に位置し、平戸大橋により九州本土と結ばれ、生月島は平戸島の西にあり、生月大橋で結ばれています。大島は平戸島の北にあり、交通手段は船舶のみとなっています。田平町のみ、本土の内陸地域と接しています。

新市の面積は、235.5km² となり、各地域とも平坦地は少なく、起伏の多い地形となっています。また、海岸線は各所に半島、岬が突出し、断崖などの自然景観が美しく、地域の多くが西海国立公園に指定されています。

新市の位置



() 内は面積（平成15年10月国土地理院調）



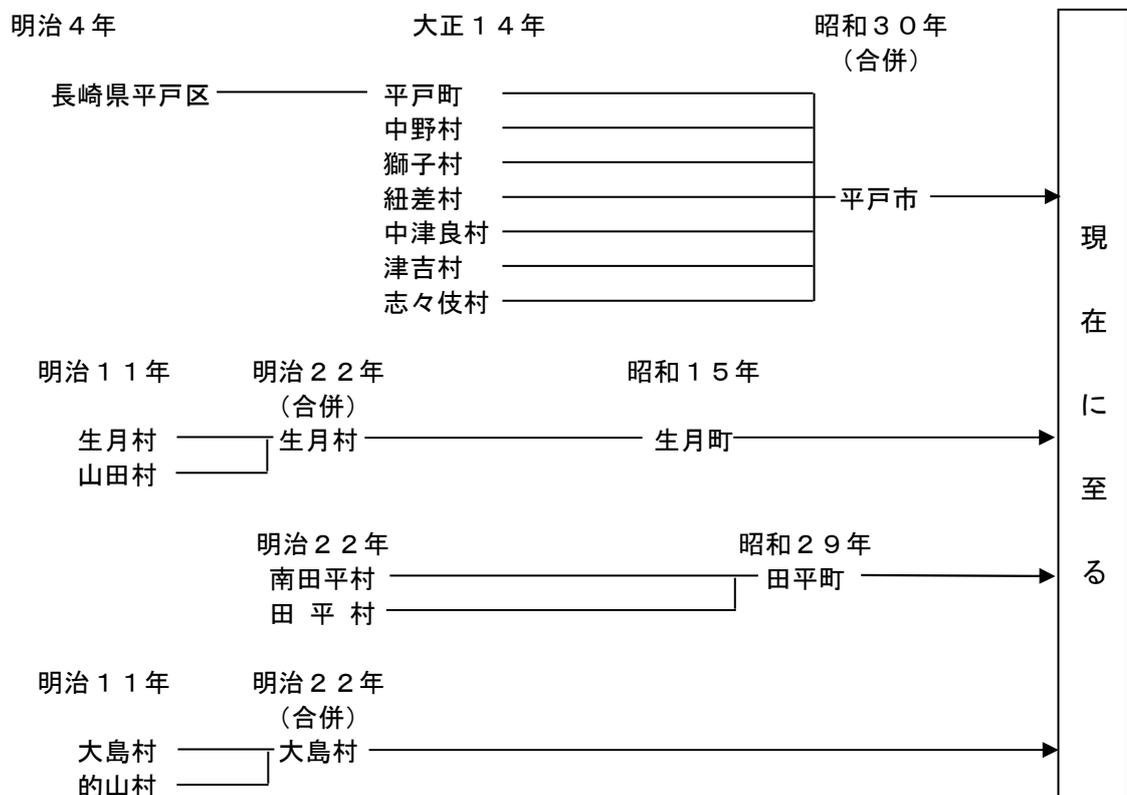
②歴史

当地域は、わが国の西端に位置し大陸に近いことから、古くから大陸交流の玄関口として栄え、平安時代には遣唐使の寄港地として、空海や栄西なども立ち寄っています。16世紀にはポルトガル船が来航し、17世紀前半には平戸にオランダやイギリスの商館が設置されるなど紅毛文化やキリスト教伝来の窓口となりました。しかし、江戸時代にはキリスト教が禁止されたため、数多くのキリシタンが弾圧され殉教者も多く、その遺跡も数多く残されています。禁制下においても、「かくれキリシタン」として信仰を守り続けた人々が使ったお掛け絵などが生月町博物館・島の館や、根獅子の切支丹資料館に保存、展示されています。

また、当地域は捕鯨基地として栄えた歴史を有しており、生月島は江戸時代に日本一の規模を持つ益富組の本拠地として栄えました。

廃藩置県により、当地域は平戸藩から平戸県になり、その後長崎県となりました。平戸島は平戸町など1町6村でしたが、昭和30年に合併し平戸市となりました。また、生月島は生月村と山田村がありましたが、明治22年に合併して生月村、昭和15年に生月町となりました。田平町は南田平村と田平村が合併し、昭和29年に田平町となっています。大島には大島村と的山村がありましたが、明治22年に合併して大島村になり現在に至っています。

1市2町1村の変遷



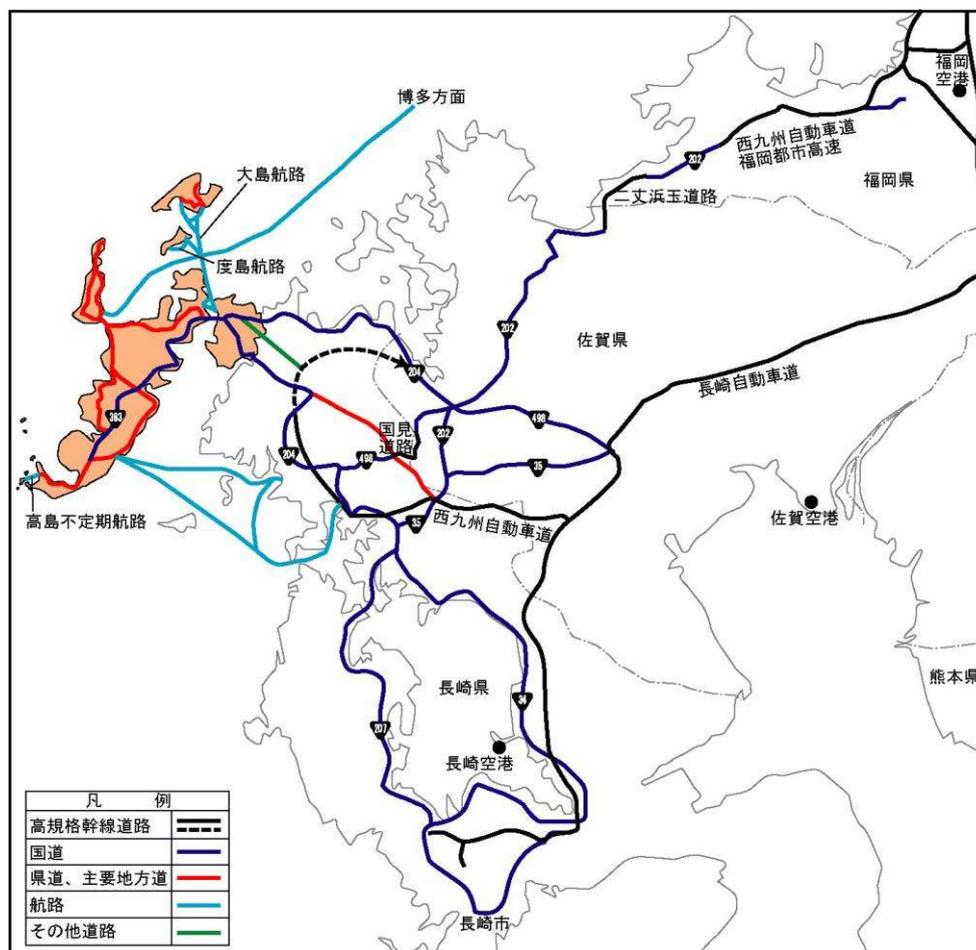
2) 交通環境

当地域は九州の西、長崎県の北西端に位置していることなどから、道路網について周辺都市との広域的なネットワークは十分とはいえない状況にあります。県庁所在地の長崎市や福岡市とは自動車ですら約2時間～2時間30分程度の位置にあります。今後、西九州自動車道の整備やそれと当地域をつなぐ道路整備に伴って、福岡都市圏や長崎市などとの広域的なネットワークの形成が期待されます。

一方、地域内の幹線道路としては田平町を通る国道204号、平戸島内に国道383号、主要地方道平戸田平線等がそれぞれ整備されており、本土地域と平戸島、生月島を結んでいます。

公共交通網の状況をみると、鉄道路線としては松浦鉄道が国道204号と並行する形で走っています。また、平戸市内および平戸市～生月町間にバスが運行しているものの、自家用自動車利用者数の増加や人口減少、少子化によりバス利用者数は減少傾向にあり、運行経費を行政が負担するなどの問題を抱えています。さらに、大島村と平戸市の間はフェリーが就航しており、島民の足としての利用のほか生活物資、車両、農水産物等の輸送手段として大きな役割を担っています。

周辺地域との交通ネットワーク状況

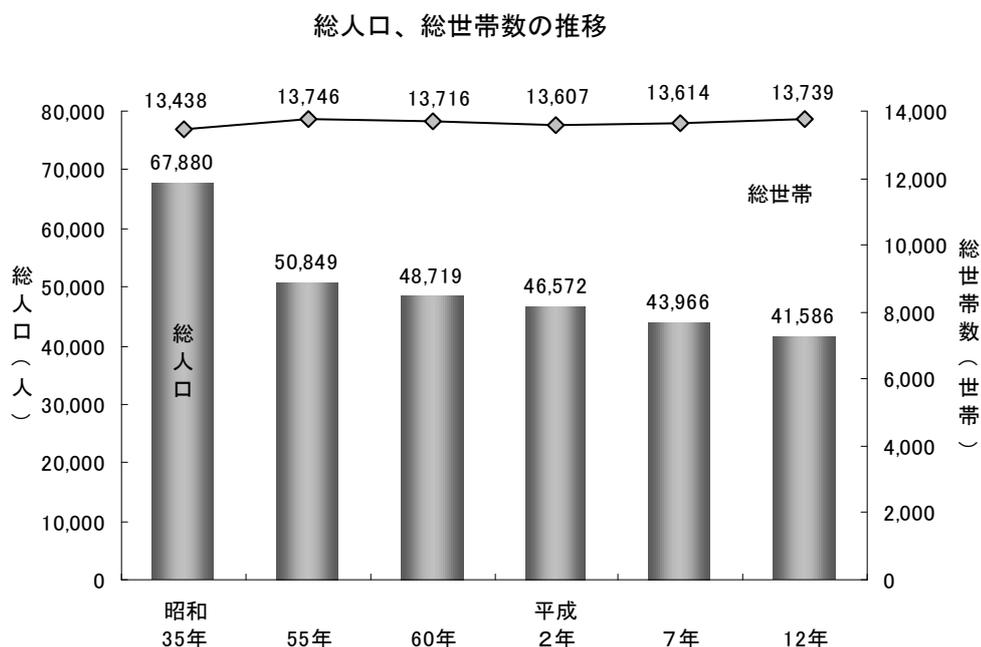


(注) 上記の図は、具体的なルートや位置を規定するものではない。

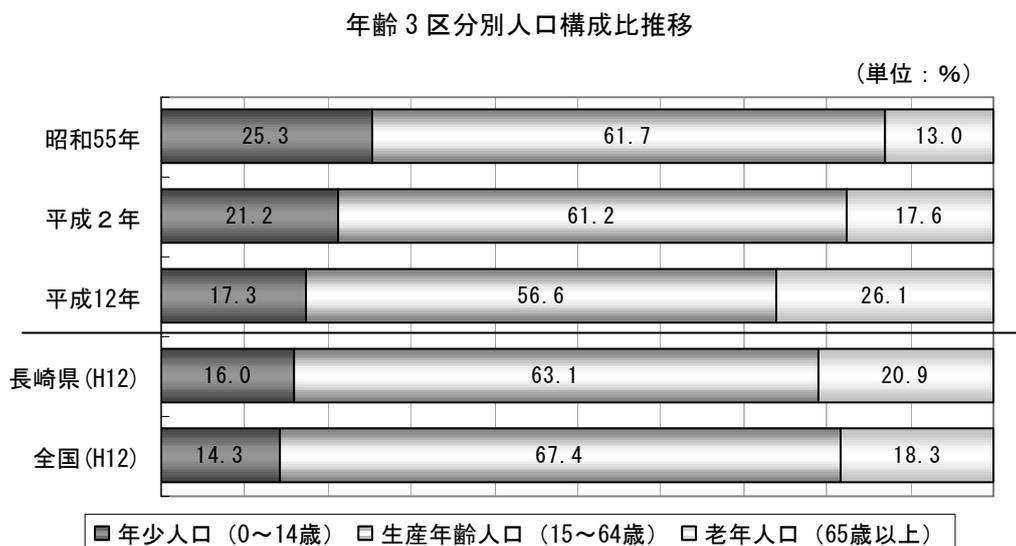
3) 人口・世帯

平成12年の国勢調査による当地域の人口は41,586人となっています。昭和55年と比較すると、減少率は約22%となっており、減少の傾向が続いています。平成12年の年齢3区分割合をみると、年少人口（0～14歳）の割合は17.3%、生産年齢人口（15～64歳）は56.6%、老年人口（65歳以上）は26.1%となっています。長崎県平均と比較すると老年人口の割合が大きく、生産年齢人口の割合が小さくなっています。

また、世帯数には大きな変化はなく、昭和55年から平成12年にかけて、ほぼ横ばい状況となっています。



資料：国勢調査

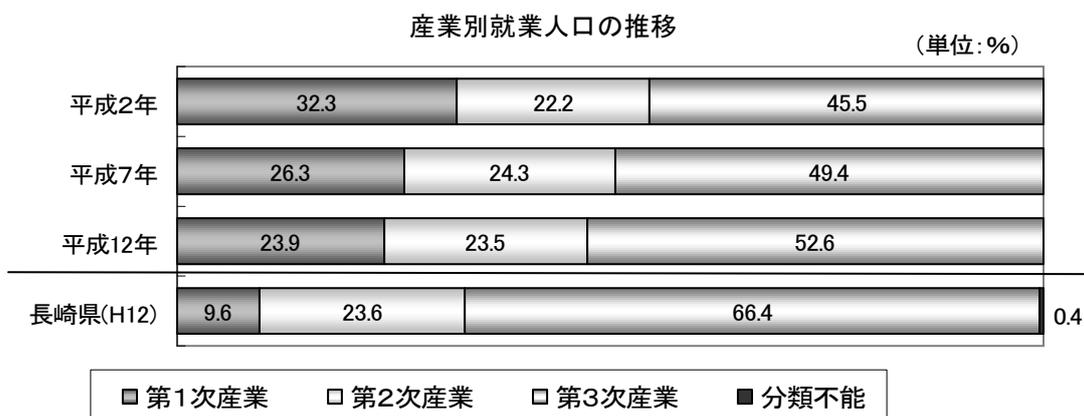


資料：国勢調査

4) 産業構造

①産業分類別就業人口

産業別就業人口の割合をみると、近年では第1次産業の割合が大幅に減少し、第3次産業の割合が増加しています。しかし、平成12年において第1次産業の割合は23.9%で、長崎県平均(9.6%)を大きく上回っており、農林水産業を基幹産業とする当地域の特徴を表しているものと考えられます。



資料：国勢調査

②水産業

当地域は、長崎県の北西端に位置し、対馬暖流の影響を強く受け、数多くの島嶼と複雑な海岸地形や潮流の影響により、九州でも屈指の好漁場が形成され、イワシ・アジ・サバ・ブリ・イカ類、サンマ等の回遊が見られるほか、マダイ・イサキ・ヒラメや磯根資源のアワビ・ウニ等数多くの魚介類に恵まれています。

このような漁場環境のもと、大中型まき網漁業の基地を抱え、釣り漁業のほか、刺網、定置網、採介藻漁業、養殖業など多岐にわたる漁業が営まれています。

一方、漁業経営体数の減少、漁業者の高齢化、後継者不足のほか、「磯焼け」による藻場の消失・減少など、水産業を取り巻く環境は依然として厳しい状況となっています。

3カ年漁獲量(トン)の推移

| 区分 | 海面漁業漁獲量(トン) | | | 海面養殖業漁獲量(トン) | | | 合計(上段:トン, 下段:百万円) | | |
|-----|-------------|---------|---------|--------------|--------|--------|--------------------|--------------------|--------------------|
| | 平成12年 | 平成13年 | 平成14年 | 平成12年 | 平成13年 | 平成14年 | 平成12年 | 平成13年 | 平成14年 |
| 平戸市 | 6,400 | 5,723 | 4,901 | 441 | 415 | 823 | 6,841 5,804 | 6,138 5,688 | 5,724 5,513 |
| 生月町 | 43,906 | 55,930 | 53,581 | 0 | 0 | 0 | 43,906 9,148 | 55,930 7,719 | 53,581 8,296 |
| 田平町 | 334 | 299 | 332 | 493 | 106 | 141 | 827 654 | 405 430 | 473 397 |
| 大島村 | 697 | 496 | 465 | 758 | 801 | 1,126 | 1,455 1,300 | 1,297 913 | 1,591 1,323 |
| 計 | 51,337 | 62,448 | 59,279 | 1,692 | 1,322 | 2,090 | 53,029 16,906 | 63,770 14,750 | 61,369 15,529 |
| 長崎県 | 309,210 | 301,323 | 285,260 | 26,703 | 27,035 | 24,259 | 335,913 119,290 | 328,358 113,175 | 309,519 110,222 |

資料：漁港港勢調査

3 ヲ年漁業経営体及び漁業従事者数の推移

| 区分 | 漁業経営体数 | | | 漁業従事者数（人） | | |
|-----|---------|---------|---------|-----------|---------|---------|
| | 平成 12 年 | 平成 13 年 | 平成 14 年 | 平成 12 年 | 平成 13 年 | 平成 14 年 |
| 平戸市 | 784 | 813 | 779 | 1,783 | 1,739 | 1,639 |
| 生月町 | 215 | 215 | 221 | 824 | 807 | 760 |
| 田平町 | 154 | 95 | 97 | 216 | 140 | 150 |
| 大島村 | 92 | 90 | 89 | 218 | 203 | 204 |
| 計 | 1,245 | 1,213 | 1,186 | 3,041 | 2,889 | 2,753 |
| 長崎県 | 13,839 | 13,410 | 13,233 | 29,628 | 28,158 | 27,166 |

資料：漁港港勢調査

③農業

当地域においては、恵まれた自然環境のなかで、肉用牛をはじめ米、葉たばこ、ばれいしょ、たまねぎ、そらまめ、いちご、アスパラガス、菌床シイタケなど様々な農作物が栽培され、生産の安定化、産地のブランド化が進められています。また、地域内には肉用牛をはじめとする畜産に係わる関係機関が立地しており、これらは、県全域の畜産振興の拠点となっています。

一方で農家数、農業人口、農業産出額ともに減少傾向にあることや高齢化の進行など、農業を取りまく環境は厳しい状況となっています。

農家数と農家人口の推移

| | 農家数（戸） | | | 農家人口（人） | | |
|-----|--------|--------|---------|---------|---------|---------|
| | 平成 2 年 | 平成 7 年 | 平成 12 年 | 平成 2 年 | 平成 7 年 | 平成 12 年 |
| 平戸市 | 2,429 | 2,152 | 1,996 | 10,746 | 9,152 | 8,262 |
| 生月町 | 459 | 449 | 431 | 2,206 | 2,071 | 1,905 |
| 田平町 | 677 | 628 | 584 | 2,918 | 2,601 | 2,361 |
| 大島村 | 211 | 188 | 172 | 899 | 793 | 700 |
| 計 | 3,776 | 3,417 | 3,183 | 16,769 | 14,617 | 13,228 |
| 長崎県 | 55,367 | 48,497 | 44,415 | 249,611 | 210,806 | 189,798 |

資料：「世界農林業センサス結果報告書」（県統計課）

農業産出額の推移

（単位：千万円）

| | 平成 6 年 | 平成 9 年 | 平成 14 年 | 農家 1 戸当たりの生産 農家所得（平成 14 年） |
|-----|--------|--------|---------|-------------------------------|
| 平戸市 | 317 | 268 | 231 | 358 千円 |
| 生月町 | 45 | 43 | 37 | 295 千円 |
| 田平町 | 107 | 93 | 86 | 486 千円 |
| 大島村 | 57 | 56 | 46 | 1,227 千円 |
| 計 | 526 | 460 | 400 | 420 千円 |
| 長崎県 | 15,321 | 13,945 | 13,012 | 977 千円 |

資料：「生産農業所得統計」

経営耕地面積（販売農家・平成12年）

| | 耕地（a） | | | | | | |
|-----|-----------|-----------|-----------|---------|---------|--------|---------|
| | 計 | 田 | 畑 | 樹園地 | 果樹園 | 茶園 | その他の樹園地 |
| 平戸市 | 128,241 | 104,694 | 21,886 | 1,661 | 1,481 | 170 | 10 |
| 生月町 | 24,274 | 17,276 | 6,970 | 28 | 28 | - | - |
| 田平町 | 53,530 | 30,178 | 21,821 | 1,531 | 1,368 | 149 | 14 |
| 大島村 | 26,844 | 16,187 | 10,657 | - | - | - | - |
| 計 | 232,889 | 168,335 | 61,334 | 3,220 | 2,877 | 319 | 24 |
| 長崎県 | 3,589,818 | 1,778,739 | 1,228,059 | 583,020 | 521,655 | 52,236 | 9,129 |

（注）「販売農家」とは経営耕地面積が30a以上又は農産物販売金額が50万円以上の農家をいう。

資料：「2000年世界農林業センサス結果報告書」（県統計課）

④観光

当地域は、美しい海や豊かな自然景観に恵まれているとともに、西欧やアジアとの交流の歴史やキリシタン文化を色濃く残す史跡等地域特有の歴史・文化資源があふれており、長崎県を代表する観光地の一つとなっています。しかしながら、近年の観光客数は微増から横ばいとなっており、平成15年の観光客延数は192万人という状況です。また、その観光客の約80%は平戸市への来訪者で、生月町、大島村への観光客は伸び悩んでいます。一方、田平町では「道の駅・昆虫の里たびら」のオープン等にとともに、平成13年以降、大幅に増加しています。

平戸市を訪れている観光客については、近年、日帰り客が増加し、宿泊客が減少傾向にあります。観光客の滞在時間が短いことから、地域経済への効果は小さくなっています。

観光客延数の推移

（単位：千人）

| | 平成7年 | 平成8年 | 平成9年 | 平成10年 | 平成11年 | 平成12年 | 平成13年 | 平成14年 | 平成15年 |
|-----|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 平戸市 | 1,260 | 1,228 | 1,289 | 1,292 | 1,357 | 1,449 | 1,493 | 1,501 | 1,502 |
| 生月町 | 432 | 458 | 416 | 417 | 386 | 368 | 317 | 293 | 249 |
| 田平町 | 85 | 91 | 89 | 91 | 87 | 91 | 152 | 151 | 143 |
| 大島村 | 36 | 38 | 38 | 37 | 35 | 33 | 31 | 29 | 28 |
| 計 | 1,813 | 1,815 | 1,832 | 1,837 | 1,865 | 1,941 | 1,993 | 1,974 | 1,922 |
| 長崎県 | 29,258 | 31,339 | 30,413 | 30,175 | 29,913 | 31,511 | 31,631 | 30,908 | 30,175 |

資料：「長崎県観光統計」（県観光課）

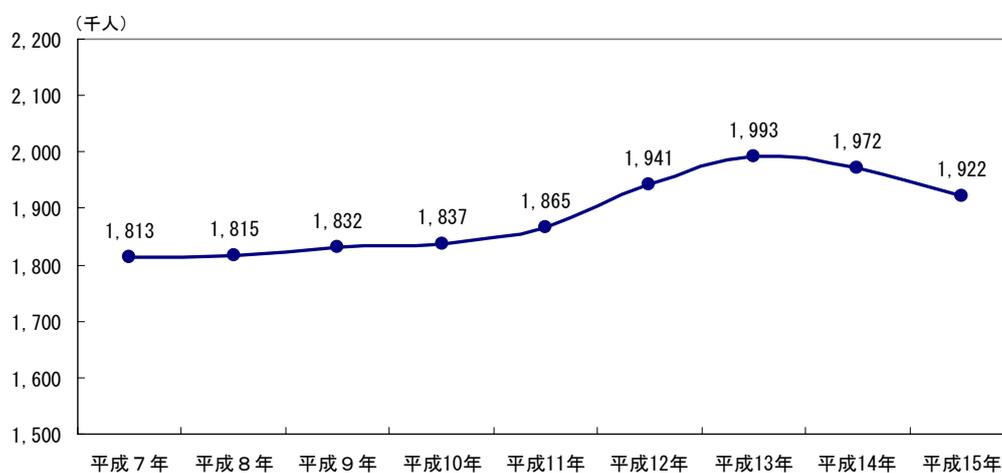
観光客数の内訳（平成 15 年）

（単位：千人）

| | 日帰り宿泊別（延数） | | 県内県外別（実数） | |
|-----|------------|--------|-----------|--------|
| | 日帰り | 宿泊 | 県内 | 県外 |
| 平戸市 | 616 | 886 | 444 | 536 |
| 生月町 | 237 | 12 | 83 | 160 |
| 田平町 | 114 | 29 | 106 | 22 |
| 大島村 | 17 | 11 | 17 | 4 |
| 計 | 984 | 938 | 650 | 722 |
| 長崎県 | 18,183 | 12,042 | 9,997 | 12,850 |

資料：「長崎県観光統計」（県観光課）

観光客延数の推移



資料：「長崎県観光統計」（県観光課）

⑤製造業等

当地域の製造業事業所数は、平成14年で94事業所、従業者数は1,312人、出荷額等は約87億円となっています。また、住民一人当たりの出荷額等は、4市町村のなかで最も高い平戸市でも263千円で、県平均の984千円と比べて低い状況にあります。

製造品出荷額等の内訳では、「食料品」、「窯業土石」、「衣服・その他繊維製品」、「輸送機械」が主なものとなっています。また、好風況地域であるという気象条件を生かし、クリーンエネルギー（風力発電）の開発等の取り組みが行われています。

製造業事業所数・従業者数・出荷額等の推移（従業者数4人以上）

| | 製造業事業所数（力所） | | | | 製造業従業者数（人） | | | | 製造品出荷額等（百万円） | | | |
|-----|-------------|-------|-------|-------|------------|--------|--------|--------|--------------|-----------|-----------|-----------|
| | 平成2年 | 平成7年 | 平成12年 | 平成14年 | 平成2年 | 平成7年 | 平成12年 | 平成14年 | 平成2年 | 平成7年 | 平成12年 | 平成14年 |
| 平戸市 | 74 | 73 | 67 | 61 | 1,096 | 1,070 | 915 | 807 | 6,036 | 6,884 | 6,359 | 6,165 |
| 生月町 | 14 | 18 | 24 | 22 | 323 | 358 | 359 | 313 | 1,125 | 1,475 | 1,360 | 881 |
| 田平町 | 10 | 7 | 10 | 9 | 395 | 387 | 224 | 192 | 1,665 | 2,066 | 1,684 | 1,677 |
| 大島村 | 2 | 3 | 2 | 2 | ※ | ※ | ※ | ※ | ※ | ※ | ※ | ※ |
| 計 | 100 | 101 | 103 | 94 | 1,814 | 1,815 | 1,498 | 1,312 | 8,826 | 10,425 | 9,403 | 8,723 |
| 長崎県 | 3,193 | 3,082 | 2,853 | 2,563 | 81,074 | 78,787 | 69,374 | 62,774 | 1,342,584 | 1,582,541 | 1,537,118 | 1,483,526 |

（注）※は秘匿扱いのため数値不明。上記における「合計」のデータは、平戸市・生月町・田平町の合計値を表示し、秘匿扱いの大島村は除いている。

資料：「長崎県の工業」（県統計課）

⑥商業

当地域の小売商店数は、平成14年で649店、従業者数は2,425人、小売商業販売額は約279億円で従業員数は増加しているものの、それ以外は減少傾向であり、地域のにぎわい、活力が低下している状況にあります。また、住民一人当たりの販売額は、4市町村のなかで最も高い平戸市でも70.5万円で、県平均の99.0万円と比較して低くなっています。

小売商店数・従業者数・年間販売額の推移

| | 小売商店数（力所） | | | 小売商業従業者数（人） | | | 小売商業販売額（百万円） | | |
|-----|-----------|--------|--------|-------------|--------|--------|--------------|-----------|-----------|
| | 平成9年 | 平成11年 | 平成14年 | 平成9年 | 平成11年 | 平成14年 | 平成9年 | 平成11年 | 平成14年 |
| 平戸市 | 410 | 402 | 395 | 1,292 | 1,369 | 1,460 | 16,287 | 16,788 | 16,465 |
| 生月町 | 123 | 120 | 107 | 464 | 340 | 350 | 5,977 | 4,345 | 4,447 |
| 田平町 | 113 | 115 | 102 | 408 | 433 | 522 | 6,626 | 7,254 | 6,611 |
| 大島村 | 49 | 47 | 45 | ※ | 98 | 93 | ※ | ※ | 365 |
| 計 | 695 | 684 | 649 | 2,164 | 2,240 | 2,425 | 28,890 | 28,387 | 27,888 |
| 長崎県 | 20,849 | 21,020 | 19,505 | 91,813 | 98,924 | 99,619 | 1,473,968 | 1,484,230 | 1,491,382 |

（注）※は秘匿扱いのため数値不明。上記における「合計」のデータは、平戸市・生月町・田平町の合計値を表示し、秘匿扱いの大島村は除いている。

資料：「長崎県の商業」（県統計課）

(2) 住民意向の把握

1市2町1村を対象にした住民アンケート調査の結果に基づき、住民ニーズに適切に対応できるよう、新しいまちづくり計画を策定するにあたって特に重要であると考えられる事項を整理します。

①海的美しさをはじめとする豊かな自然が新市の大きな魅力・特色であると認識されています

- ◆ 新市で自慢できるものとしては「海的美しさ」、「新鮮な水産物」、「山の緑や水の豊富さ」が多くなっています。
- ◆ 新市の将来像でも、「自然環境や景観を大切にする自然と共生するまち」が最も多くなっており、中高生でも「自然を大切にし、自然と共生すること」が突出しています。
- ◆ 住民の暮らしにゆとりとうるおいを与える自然環境を保全するとともに、産業振興の分野において、より積極的な活用を図るなど自然と共生したまちづくりを進めていくことが重要であると考えられます。

②産業振興、雇用の場づくりに対する要望が多くなっています

- ◆ 「農林業、水産業、商工業、観光の振興」などの産業基盤の強化・雇用基盤の強化に対する住民ニーズは高くなっています。
- ◆ 合併への期待でも「新しい産業の創出など雇用の場の確保」、「農林水産業等の基幹産業の振興」との意見が非常に多く、特に40歳代以下の年代では「新しい産業の創出など雇用の場の確保」への要望は際立っています。
- ◆ 中高生では将来の定住意向は低く、その理由としては働く場がないことが最大の要因となっています。
- ◆ これらのことから、農林水産業の振興やそれらと連携した観光の振興を図るなど合併を契機に新たな産業の創出への期待がうかがえ、定住化を促進するためにも産業・雇用基盤の強化が重要となっています。

③行財政運営の効率化や協働のまちづくりに向けた取り組みを求める声が多くなっています

- ◆ 行政施策全般のなかで「行政運営・財政運営の効率化」は満足度が低く、かつ必要性が高くなっており、重要度の高い分野となっています。その他でも「行政への住民意向の反映」、「行政からの情報公開」など行財政運営や協働*のまちづくりに向けた取り組みに関する要望が多くなっています。

- ◆ 合併に期待する点でも「市町村長や議員数、職員数の減少等による行政経費の節減」が多くなっています。また、住民のまちづくりへの関わり方については、住民の主体的な参画に基づくまちづくりへの意向が多くなっています。
- ◆ こうしたことから、住民ニーズに的確に対応した組織の再編成や人材の適正配置など効果的・効率的な行財政の運営を図るとともに、広く住民の意見が反映できるよう、広報・広聴活動の充実や情報公開の推進など協働のまちづくりに向けた取り組みが重要であると考えられます。

④福祉や医療面への要望が多くなっています

- ◆ 行政施策全般のなかで「高齢者、障害者のための施設整備やサービスの充実」、「病院や診療所など医療施設の整備」などの福祉・保健・医療に関する項目は重要度の高い施策となっています。また、「子育て支援対策の充実」に対する住民ニーズも高くなっています。
- ◆ 新市の将来像でも、「高齢者や障害者などすべての人が安心して暮らせる福祉のまち」が多く挙げられており、年齢が高くなるほどその意向が高くなっています。
- ◆ こうしたことから、まちの活力を維持・強化していくため、保健・医療・福祉など、高齢社会に向けた体制の整備を図っていくとともに、子育て支援の充実など若年層の定住促進に向けた取り組みが重要であると考えられます。

⑤地域特性や新市のバランスある発展に配慮した施策展開が重要です

- ◆ 合併への不安事項として「中心部だけが良くなり、周辺部はとり残される」や「役所・役場が遠くなり不便になる」との意見が多くなっています。特に、「周辺部はとり残される」という不安は平戸市中南部、生月町、田平町、大島村で多くなっています。
- ◆ そのため、各地域の特性や新市のバランスある発展に配慮した施策展開、サービスの提供が重要であると考えられます。
- ◆ 市町村別では、特に、平戸市中南部で「幹線道路の整備」、生月町では「水産業の振興」と「病院等の整備」、田平町では「雇用機会創出」、大島村では「観光の振興」、「病院等の整備」や「地域内外を結ぶ公共交通の充実」などの施策要望が多くなっており、施策検討にあたっては新市全体で力をあわせた、広域的・一体的な取り組みが重要であると考えられます。

(3) 今後のまちづくりに向けた主要課題

①地域の宝・誇りである豊かな自然との共生

新市の豊かな自然は、住民の日常生活にうるおいを与えるだけでなく、農林水産業や観光の振興を支え、多くの観光客を魅了し、新しい産業を生み出す源にもなりうる地域の宝・財産ともいえる地域資源です。

アンケートによると、美しい海をはじめとする自然は住民の誇りであり、将来イメージとしても「自然環境や景観を大切に自然と共生するまち」に対する住民の意向は極めて高くなっています。

こうしたことから、子どもから高齢者まで住民だれもが自慢できるものとして認識されている自然を最大の宝として守り、次の世代へ引き継いでいくとともに、より積極的に活用しながら、自然と共生したまちづくりを進めていくことが求められています。

②多彩な自然、歴史文化資源の一体的・積極的な活用による魅力向上

新市には、海洋を中心とする雄大な自然や、オランダをはじめとする西欧諸国や東アジアに関連する異国情緒あふれる歴史・文化資源があり、近年は温泉も湧出しています。このような多彩で魅力的な地域資源により、年間190万人以上の観光客が来訪していますが、観光客数は伸び悩んでいる状況にあります。そうしたなか、周辺地域と新市を結ぶ交通の要衝である田平町において、観光客が増加している状況が見受けられるものの、観光客の来訪は平戸市が中心で他町村へは少なく、地域内の観光資源が十分に活用されず、滞在・滞留性に乏しい状況です。

新市への「観光の振興による地域活性化」の期待は非常に大きいものがあります。このことを踏まえ、観光・交流によるさらなる地域の活性化に向け交通環境の整備や既存資源の魅力向上を図るとともに、これまで十分に活用できていなかった資源の一体的・積極的な活用が求められています。

③地域の資源を活かした農林水産業を核とする産業・雇用基盤の強化

産業を取り巻く環境の変化・停滞状況を反映して、アンケートでも、「農林業、水産業、商工業、観光の振興」などの産業・雇用基盤の強化に対する住民ニーズは高くなっています。

このため、この地域の恵まれた資源の活用を基本とする水産業、農林業の振興、第一次産業と連携した観光や商工業の振興および新たな産業の創出を図ることによって、若者をはじめだれもが地域に住み続けたい、戻ってきたいと思えるような産業・雇用基盤の強化を図ることが求められています。

④高齢化の進行と生産年齢人口の減少への対応

新市は人口の減少傾向が続いているうえ、高齢化率が約26%と長崎県平均を大幅に上回っています。また、年少人口も減少が続いており、少子高齢化が進んでいます。これらにより、まちを支える税収の減少や、将来的に社会保障面での現役世代の負担増につながるなどの問題や活力の低下が懸念されます。

また、アンケートに見られるように、長寿社会を反映して「福祉のまち」「高齢者などに対する施設整備やサービス充実」のほか、「子育て支援対策」に対する住民ニーズが高くなっています。

このため、まちの活力を維持・強化していくためにも、保健・医療・福祉の充実など、高齢社会に向けた体制の整備を図っていくとともに、教育・子育て支援の充実、賑わいや憩いの空間づくりなど、若年層の定着化に向けた様々な取り組みを進め、人口減少に歯止めをかけ、人口バランスの改善を図っていくことが求められています。

⑤地域性に配慮したバランスある発展と快適な暮らしの基盤強化

新市は、いくつかの島々を含む広域から成り立っており、新たなまちづくりに向けては地域が連携して一体的に機能することが重要です。しかしながら、特に、海上交通のみに依存する大島村では、他地域と比べ交通、医療等において格差があります。アンケートでも生月町、田平町、大島村において「合併により周辺部が取り残されるのではないか」との意見が多くなっているうえ、生月町では「病院、診療所など医療施設の整備」、田平町では「雇用機会の創出」、大島村では「地域内外を結ぶ公共交通の整備」に対する住民ニーズがそれぞれ特に高くなっています。

こうしたことから、各地域固有の特色を活かしながら、地域間の相互交流や連携を深め、地域が一体となったバランスある発展に十分に留意していくことが重要です。

そのため、ゴミ処理や生活排水処理施設などの生活基盤の整備を進め、快適な住環境の整備を図るとともに、情報通信基盤の整備や公共交通機関の確保により、地域全体の均衡ある発展や距離に左右されない、快適で利便性の高い暮らしの実現が求められています。

⑥住民と行政の協働による効果的・効率的なまちづくりの推進

地方財政を取り巻く環境は、長引く経済の低迷による税収の減少など厳しい状況にあります。アンケートをみると「行政運営・財政運営の効率化」の必要性は極めて高く、地方分権が進展するなかで、高度化・多様化する住民ニーズに迅速かつ適切に対応できる体制を強化していくことが求められています。

そのためには行政だけでなく、住民の主体的な参加により、住民と行政が協働してまちづくりを進めていくことが必要です。今後、保健・福祉・子育て・防災・教育・交流・環境保全等の様々な分野において、住民がボランティアや自治活動等に積極的に参加し、活力あふれる地域を創造していくような環境づくりが望まれています。